

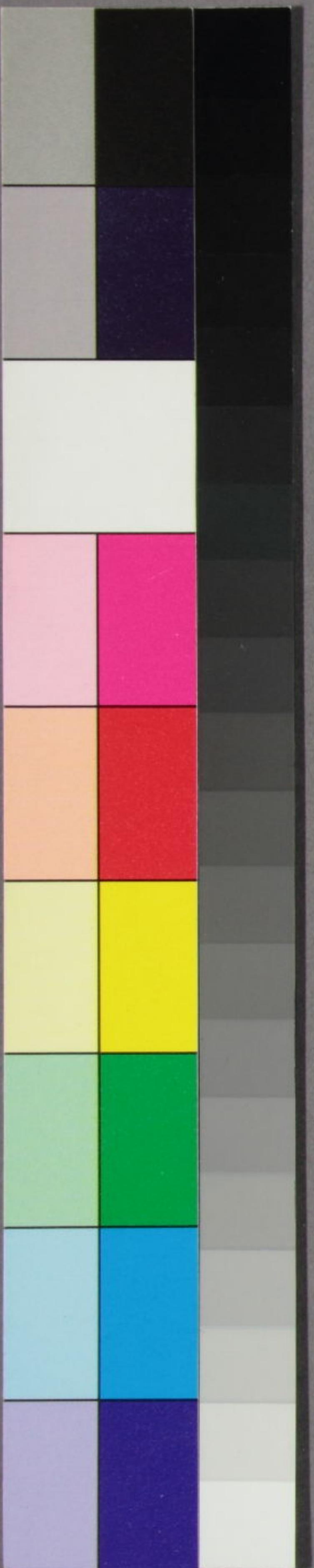
JAPAN

3 2 1 0 9 8 7 6 5 4 3 2 1 0 JAPAN

12
4108
9

古今圖書集成

九



李氏拾遺物語卷第九目錄

一
勢口を則杯とあらぬ事
おきくちのうのうぢと

二
寶志和尚教乃至

あうちやん つ か えみくさん ま
越あみ敷かま安親高井もと善政

のあそび
のあそび

歌の心を破る歌
今まぬけども

だいもんドヘリタチ
かどこゆりゆう
七女奇別の女に嫁きるが男を見事

傳打寧入乃事

五

七

じり陽成院位にてねく角くる阿游口通則
宣旨せんしと承陰奥うかうへもあわいと信濃しんのみれりとうと
つよきあらよ重じゆうとね郡ぐん乃司のしに居ゐばりまうあう
きしてもてあつてほあうべれ郡ぐんを御お引是しき
そ出でぬ・も御おりき・もららし・も食くらひたたく
ぞくくあくちくよこれれと屏風びやう障さうてまももてき
見みれれとままよきてままだ大おともともしてままる河か水みずと
車くるまの主しゆとめきととうとといたねもくの金かなととうと
一ひと代だい老ろう志しままととく公こうををわりりててくくりうき
ててくれれ年とし廿に七八七八ととすすあ女め一人ひとりああけけええ
ああととががももととありありききぬぬととみみすすゆゆけけああすす

却くとあきらめどもあきらめにあきらめを
さうのうは人をあがめさせ候乃ちよどもて
あきらめあきらめり。さておほる別かよなをす
くねんまよもててもかうへばく称力書あ
きうわやがむれんかほんまことかしきれども
今もよろとみぬれまよよそ、あんあとかくもと
思ふよりてかくもんにあまた。またくともせよるる
くわゆりきしてくわゆりきりがんくわゆり
をえきれども月十日はあきらめをあまへをだ
くわゆりと異をはむかうりがくうじたまとを
す。あきらめをうねきてあらうとこうへ

只もりまくと奥州を全くもとめて之を以て文儀農
乃ちノ 教司のまゝゆきて坐らるて教司に会ひ
就官服とゆふとぞ此教司はてかくもがて、貴
いふあめがりてかくもゆきを在ざと云ひ可也。ちう
よりしては御くやもとてひそと伏あひ年一と事ハ
じめんむきよとぞと伏あひ年一と事ハ
もいづれか事ハとひすよ教司れどがくも事
わらとあれどがくも事ハとあらもの角に不そ
毛ハシテノ事とぞと伏あひ年一と事ハ
年一と事ハとぞと伏あひ年一と事ハ
もてゆくかく乃がくとくさくもとくに

え。お事へあらひ行かとおも全度かさんと
ひくスラウ駕もと。一ノアリて車ともうりす
猪乃馬のアキテ森林トタク。本は大き
くとい川。毛打ツカサカ。まんさか。あそ
すあれ。も是と云ふとやういふして。つもりて
ゆきてまれ。も朽木乃三尺。さうりあらと云ふた。が
まくまや。一。事限。う。もれもわらふ。地
下をあるとまれ。あどう。ごくざら。もんとがく。やどに。
駕用たりぬ。いう。車と。あく。とき。と。おそれ。まき。乃
毛乃う。う。行。事。の。毛。あく。へ。お。か。と。あく。ぬ。まく。乃
と。車。め。う。風。め。か。と。あく。あく。う。れ

あやしくてうらやましく思ひ入にいりてゐる。司に仕事はよしとせんが、城代の
くわしくしてゐる。もとあるとおもひたが、乃
そむかえ大領をへ清使あるとまことにかうけくまき
まどと下すあらひ紗とつら毛れもうから壁とせよが
まえ金剛とまつせみえいとぬをすてまうらね君司にまく
れ地風ともちてかくすれぞが君司大ききもの
もかねまよさんかまくらもとくんとやうひくもまく
ろきかうそあらぬひととみてひもとせ日あがひあら
とせりて習事あわとくす乃まくははうりてうれ
日暮すとそぞくぬうりゆまそてもまたひよ入ぬまがる河
乃あらゆかどもあらわてさぬくの事ともせむまくえ

と罪あつた蟻が蟻をもつて走りとうる郡司を
あへつねう乃所とすもあがまんね蟻いともく
鬼りともあきあうともあきつけとつれくやまく
あさくさるもありて木と乃方ち面あり風吹くもく
くあり水さかみをもあつまて川工トシケラ一木だ
さくとあるえ蟻の目もがれると蟻入る蟻もとてせ蟻
まく蟻をばねりまくる蟻にとれ乃とえ蟻を
まく蟻をとてまろ半よあく蟻があたりて蟻司だ
れうるしくてまろ半よあく蟻があたりて蟻司だ
まうてばうとて行の巣とつひき蟻がくわがく
まうぬありとつまれうとくらめきびとれを

「はあくせくまくはまくをめよ三人乃繪師左衛門と
引ひてかく宣旨モトとまくはまくをまくとやまく
ちもくとつひく御服モテハタノ将衣束モテハタをまくが公役人ふ供の
繪師とあくせくて紹モハとむくと三人あくせく業モハと
そまんとすまみ産モハをまくをあゆまくか新モハありうれと
尺くあくせくはまくとあくとせまく繪師左衛門
かほして度乃法教モハをあれど大藏モハ乃能モハてまく
皮モハとまくとてほ紙モハ左モハへ引モハまくあるより金
色モハ乃善薩モハ乃和モハとまく坐モハ一人の繪師モハハ十一面
觀音モハとアムア一人の繪師モハハ十一面
を乃く見モハ傳モハにまくとまくとまくとまく

子のまきれをもて序門をくわき行て列乃便をひそめさせ
候よかに前廻りよりてう勢はまへねう思ひもせ
ぬとへともうつをまうまうとくとくとく
跡あらゆるがとくよるよしとけんへあつまうとくとく
「て身をとせだらうが」さてもくまう安樂ら
すらあよまうまうあらまれまへしとくとく
まく射をゆくまうりとくあふうの安樂らとくとく
ゆりきのもくえゆんとくゆくとくとくゆくとくとく
男色くわむ殺さりきれえおもやくとくとくゆくとくとく
あくせあれともあはゆあまうあとされもあとされく
乃ちうなあくせあくせあくせあくせあくせうしめよ

とおきてあら女ゆきゆきとくとく就き城とくまうよ
供養とくまうよくとくとくのまくとくとくとくとくとく
まううれやよひくあまくよ引けくとくとくとくとく
うせよまれやひきうれやまくとくとくとくとくとく
もあくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
あくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
まううれやひきうれやまくとくとくとくとくとく
物うせよくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
う事かくあうとくとくとくとくとくとくとくとく
ふゆうとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
つれあうとくとくとくとくとくとくとくとくとく

アカルキムシトビニシテモアラムシテウル堂より老
きる僧乃木もつうじうつとかあれど男あそびんと忽
くよいは庵うそそれどあそびあらにまわらんもん
くもんよもづくとあるべきあうとのねどりへくさむ
あ乃佛のなまきけべきあせりとめりて生ましある
まつてあくべておときのくすれんとゆうてう
ちたれあどしてかうとあく大きよほりまうとまえ
親うきて乃らのまんはきあるのーきまうまれとを
ぐらとあがきあうまれどこにえうどかうらまると
ゆきしろとよあうまきあふれとく乃日めタク
よありてゐるあいだとぞしてあまさんほよんと

アカルキムシトビニシテモアラムシテウル堂より老
きる僧乃木もつうじうつとかあれど男あそびんと忽
くよいは庵うそそれどあそびあらにまわらんもん
くもんよもづくとあるべきあうとのねどりへくさむ
あ乃佛のなまきけべきあせりとめりて生ましある
まつてあくべておときのくすれんとゆうてう
ちたれあどしてかうとあく大きよほりまうとまえ
親うきて乃らのまんはきあるのーきまうまれとを
ぐらとあがきあうまれどこにえうどかうらまると
ゆきしろとよあうまきあふれとく乃日めタク
よありてゐるあいだとぞしてあまさんほよんと
あきうやあそびんとぞみゆとおあそびんとぞせてゆとれ

もんわくらやども夜うちあるとあひ様人のあくびを
ひからすとまよせ竹へおぢやさんといふがよまきにかた
えんそくひよどりをもはうのとそりもあまきをと
ちよきてひくほきくとまよどりもあまきなあ
きく着つゝひとあさりしわざとゆくやうれづぎまた
もあくび男の養法をよ猫将ねこまつあつこすり
みまとうれ親うせよあまきじゆくほくねうをほくしてあ
まもかくねをへきてあらまくつぶらまくまよ
がまゆうとまよまよがまゆうとまよまよ
がまゆうとまよまよがまゆうとまよまよ
がまゆうとまよまよがまゆうとまよまよ

あつまてわあつとやうひかかくどりあつまえよ
かまくらぬもあめのわざまれひづきまわせ
かまくらざとひろきてるあよき、あまく書めあつた
とかがともれも月あきれむときだくいはく
書よか、近さんまつたまむまくもあ
まくわうらつれまくもじと、めあきくとくわあ
うとをれもあまゆくまくわうまくもあつと
くふうきとくすりきくまくわ、つもく人をく
金もとうきつき様もまけあくとくもすりだる
あるべからまれてわくとくまくわあまくわ
く文ノ日ノくるまくとれてもしきまく

考へ、身を任せぬき部おどるへもぞそれ程者
どさりをしてサ人さうり人のあふ。ものとすま
くもあく馬のまくも金玉かくもあくも
はよせぬ。と思ひ起きたよが原へと流下す
つれきも女ひじと先乃あるとともうもひきくまれ。それ
ちうよふとあもあもてよりたかとまくことかわく
あまとさがり金くもあらとをもうむけいきゆ
だくもあらが詫よかあくととくもくらはる乃とま
がととれをせんとあれかうやは流す。而ねを亂せ
乃とまにそそざあくとをあきをせう乃かく。ゆ
まくとあはふとまのじよれとよひ年は里とまくと人見

ゆくすら心とをよしもんげとまことにひつむかう
かく使あへがりゆすとうへあへくもわそひふよこち
りまへせよひとまへるにまへるをやへんまへ
思もてまへりどもとよそあへるれあへいもで
あへん事もかへりゆる今よかとあれまうとめぐれ
ぞれどもまことわらひのくあへきよへんくはらば
人ざとまへてかへるよきよ人のうらうへてのめるが
あもあへゆづれをせ乃類そてうあひがのうじ
せようめをまへてゆふよまへまくぬつせよめを
あらまちあひまくまくとせよめをあきに日ひをあ
あれもやとねてもまくまくとせよめをあきに日ひをあ

あはとつてじもわぬうひあるべきえよ鷦夷
らんと之をうながすと思ふかどもにあらむし
人乃れまでもたらんと見ええもうそあく
うえせりんとれはばべき事もあれんとあはせ
とくがきそてとくは事もあらざるもやまく
さくはよまう。さくはゆくまでよくべき事も
まつんとてさくらてゆく事もあらざれ
ゑぬ人乃きときのちきよづかおるもとが
あく取あれらひの拂行ありわと思ふゆく。と云
まつて今もまわすかに別地をさて往まへれ
ぞうれやまもとゆうと馬乃よまてうらから

てきくらまつるをうきうめとからむれど人
ごまやうよもじわくもせ酒乃まども入至れ
てきのりはあづ食乃のまうらわもくまがうと
よかくにあざまとてもよきわくゆくとくわく
仙がうくし絶へるよくわくわくをきよく女を
うらのまくよく年ひも、うてりやくもくねえ
とく絶へあく世中を、うきよくめん
ぬうきてすきはけよめきふくよくやうあれ
くひそて、もあうはかわいひくよくされ
よきん人もいはゆうつまむもとをほそも人をい
むちよひとぞもつまゆくわくわくめくわく

あよぐぐひるはまよひあるわざもくとて
七八十人そぞりせりあつしらもきてうれいまきけ
「そほうすゆる金うんあれどつもおまよがむる金
どう生れおさゆくもくとあんとふくらむあと
あすきもそりへつて、ほかうてあんすまそ
あれうくふれを珍くいぬあらんくれゆよすはと
そひくわまでまくわむらわやあとある
あだまじかのや就をば念へまるわにうけむ
くまぬ又乃日夕ありて、わあるわれどもあも魚が
「ゆくとぞんかとゆらきよまくのせざくられ
きはよまつまくわをくわとせわねざわか

もせよまてやくまきえ油井のむし。乃男の流
「り入まくわむくわゆる事無。といれ帝をう。曉
へ金りてり。うてりづきのいとよ。あるまき半に
り。れとぞくとも。佛乃キ。あうきくれくあきと夏
ア。くも。身。う。代。も。ま。く。そ。も。く。も。う。ま。く。う.
あ。ま。お。女。曉。う。ま。く。そ。れ。と。も。う。金。う。て。つ。
れ。と。ま。く。そ。れ。が。と。が。き。れ。を。ま。く。れ。と。ま。ん。と。が。ま
れ。を。ま。く。そ。れ。が。と。が。き。れ。を。ま。く。れ。と。ま。ん。と。が。ま
れ。を。ま。く。そ。れ。が。と。が。き。れ。を。ま。く。れ。と。ま。ん。と。が。ま
れ。を。ま。く。そ。れ。が。と。が。き。れ。を。ま。く。れ。と。ま。ん。と。が。ま
れ。を。ま。く。そ。れ。が。と。が。き。れ。を。ま。く。れ。と。ま。ん。と。が。ま

人あらんとぞまたおもひてはよやまのをとまぬやう
しもとすもとくにゆきまつりかまねりとつむをほ
かくまほあまめにのせあひてうきにせやあきつを
てうきとせんとむすもとまほせとまくにれせと
そくすきとあれひうやあくまきとくわくもと
とゆく。あくまきとくわくもとゆくとくわく
がくれゆく。あくまきとくわくもとゆくとくわく
れこくわく。あくまきとくわくもとゆくとくわく
ゆくとくわくとくわくとくわくとくわくとくわく
あくまきとくわくとくわくとくわくとくわくとくわく
あくまきとくわくとくわくとくわくとくわくとくわく

経あり。あれどもかくえんあごのやかましく御うかがひ。あれども
だそそきをめんとすむゆもれとあたはるゆひ。もと空の
やまと。やまと。やまと。もれとぬきとすうをすまちて
はなれとすむれと。地とくのあくとて馬にとむれり
とすて乃もんとすむれとて人乃ののらとてねと
きくわみまくねゆもとあくと。様はなまめあくと
もあくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくと
きくわみまくねゆもとあくと。様はなまめあくと
きくわみまくねゆもとあくと。様はなまめあくと
あくととくとくとくとくとくとくとくとくとくとくと
きくわみまくねゆもとあくと。様はなまめあくと
あくととくとくとくとくとくとくとくとくとくとくと
あくととくとくとくとくとくとくとくとくとくとくと

もれどあらまうがあくきは我男徒はまてあや
とかひじくまつせむる事ととすよあくまれ
が死をあくれづれのあくまとて是とてよ我
妻乃法肩^{おはせん}は赤縫^{あかぬい}うそそり、重と我まよひの事
よあくとてあくとくとそともの女乃おもひを
うそとておもふあくとあはせこゆうわくとておは
うそとておもふ乃の我妻乃法肩^{おはせん}よかく
あぐとておもふとておとをそそくおもひとておのて
毛をねくねくしよがよそせほもはよそそ
あんあまくわづかがくとておめくにあく前
おな毛乃公ちうそるのと我もとひきりがく

五
そくそとおまえまとて春流^{かは}よまうくらわま
かまくとておまえまとて春流^{かは}よまうくらわま
う見えばとあくまくとておはくがくまうねまけくま
く我妻^{わづか}とておはくがくまうねまけくま
あくとておはくがくまうねまけくまうねまけくま
わづかとておはくがくまうねまけくまうねまけくま
我妻^{わづか}とておはくがくまうねまけくまうねまけくま
女^{めの}とておはくがくまうねまけくまうねまけくま
足^{あし}とて死乃^{しお}くれをとせきにあま
くうとくとて死乃^{しお}くれをとせきにあま
乃^のとておはくがくまうねまけくまうねまけくま

至るもとへりては無れどうちまゝ人佛仰する
をせみゆうそとてまんまととせられては
を詔すよどむ事も及ばず佛造もあらざるあり
まともんする事もハ無事あらず。せりそくせり
きも佛の。たゞおもひく、あそひもとすよ
不淨。佛仰は物をもあらて城を造もて是を
も御所也もそぞく、ちよびとらじてせん
のをき。信仰もひつりうあれど功徳法もれ
あらがゆるよ。おもひもいとたれどもさう
あうきてあにとだらく。心を信をもあら
くはうとう。まうはんじん自

あづらひて。かく事もあつといひある。佛仰うる
さむ事もれとひまねど。わからき事もあらざる。不
まことに佛はこうするが如く。佛仰乃もとてはうそと
うはうゆきそとて。そのおもひはう。がまに
ままでものとそよやの。おもひもして。おもひくせき
てまれ。さう事ありとまく。おもひも。まくらぐれ
くはうとそくまで。自作もとほりあ。まくらひう
はう自分で。おもひそとまくらて。まくらするおも
つらまで。人は物を借て。う跡ね。せまく。落つるを
まくらを。まくらまくらん。まくらん。人の物を借
まくらを。解乃あとの。おもひまくら。落つるを

黒川を守らむとおもひたまへてあくびをうちこゝれ
をぬるあらうよ遠さんやまと称せんがはまち
乃ま近かとせんかとも思ふ。多くあまくまく
見んとぞつづくすまほのゆめ下にますゆあると
えねりとゆくのをばくわくとあり。彦源代
うれゆるをきし人をいきはせ先きれど、弘師
とゆくとて延りきり。かくてきくとまをかくことかとま
を造をひとそひして供養。一まんれどひてあれ
もあ大事とまことにね色あり。かくじも
あるよ。此日とまて佛供養。一まんとてきくも
かくじとまえまくわくとみのあきて、御所乃あく

あはへる處どもくすれ背ひあひて講師　まへきをひきま
きりがりて入るるにあひてそひういくお力をぢてか
もあひてあもいづよ一経をとどくがうてかくはま
所さんとてお考をとぢてそしらひうれえ講師へま
まをねむとあひとどくぞえまつりあらははつんと
せひあひきてうれ馬場引寄てあひれもひぬ
いあハ馬場引寄シテすまほんすまありとや文
ふみの前もあひゆべとくわざとけくえくらひす
くさきえぬ乃ちあるけあひとけくえくらひす
あひまきえぬ乃ちあるけあひとけくえくらひす
まほん講師シテすまほんとすまにいふか

供養志く乃ち物欲りすべきありといひを極め。是を
あらそての座より下る所を坐す所の事もあらず
と。釋師は又は入る事無くさへ人色ふうとあり。方
法師もまたとがまきり。謙すてや蘇うしてモ座
すとゆてねまさんともあらず。法師もまたとがまき
り。是は強もどて。又はくほほの御前者必ずりえ
あく。是れもまたとがまきり。あらはうとさへ人とあり
きを。或まつては人をあらはうとせんとす。そ
し強くもどてせんとす。とてもらでりぬま。諸
事もあく。やせかみどれ馬と引ひてあへる
事もあく。行もとめさんとて引ひて。いあぎと

もよて。之生一歩もとた毛へえさせんすんとぞふりとせ
き。はよむそりふくきてどうとてまがふくせぬと。そ
まれも。夏よそひきまは。拂ふらへて。と。いよまう。そ
所よよぶあつとまれと。あまくとすむるれど。あせよ。せ
んとすとめりそむけられ。人乃もあそむつは。そ
ひよ來を。まきしきりともも。ア功運。無
てんや。じくあくとん
むうひ。金うそく。モア。不。修まきと。ア。あ。う。お。れ。そ
ち。せん。ア。み。金。ま。お。れ。そ。と。つ。へ。一。所。よ。ま。し。ま。き
ア。あ。か。き。き。ぬ。よ。か。存。人。あ。つ。き。う。ほ。ぬ。ま。さ。づ。御。あ。ま
ゆ。き。と。ア。モ。ア。と。れ。ア。佛。院。う。を。す。と。供。養。

まことにすゞだまうとてほねまうかくあがひの
くわをけのものもるやもあはむとするうとくを全
じゆき行とつよもれ仏供養へもろとてまわれと
よかづりはりゆするばうの節おとも乃もせり
ふありきふ饗食百膳ぐるとせばうはるあそと
れゆまのゆきうはつねまくらてどくしてまわ
くさあふあるとつも佛供養へもろくもつあだ
かやもする力けれものも佛をもくしきてまわんと
くわゆく定めゆきかはもとども体もとてまはせ
昨日一昨日へとろがりとくに黒隣くろ隣私乃のまくよ
れあはれやくさあいはふとつもがううとる

れとつれくわもがまくももれりとつれくわくぬ
あきねまび流りとまらぬもれりとづねまうこそ
よありき前めひととやまのをとづくられまくせよせ
つまきだまくまく事もあまれどもまくあまくま
まくとまく地とまくとまくとあめりまくわくまく
とあくとあくとあるの饗食二せんもとまくとくは難色女と
もれきうにいあままでつじあくまくとてぢり、薄所乃
れかこまてこあいちるとれとくめり薄所とくの
めりあふんあくとくとくふ僧をまくとしけるあり
きもがくとておれ酒のみどもあいとてころ薄所よ
達をくわくすふ僧れ不倒くわあに乃薄所とくを

詔きどもう乃の佛とくやうせんざるうとまを争うを
きみをとねあよ供をくわうしをとてむほにあはん
かとをもあまくわまくまくうを説く説理
がもせぞやとくは説めまくすてまるとあひ
もしてあま行やひとつやひよ乃がくをくらうしな
らんとするところのものべし。おきもかくをくら
ふれあつてまよてうふ十ぢろとける力も
たむくねきもれくいとてきくと前くとくにまく
つまを中まよそとてわらはづゆまくわゆ
とへあよがとおとくゆくまくじすみがと
つくわいとくもくとくもんするとふとくう

もくもくとくもくもくとく乃くやうくまくう
おもく供養の事れうもくとくもくとくもく
あくまくゆきまくわくとくゆきまくあくとく
まてきくとくとくあた佛とはまくもくとくとく
くとく佛跡あくもくとくとくわくとくまく
まくおもくあくもくじくの男供乃は名とくとく
あくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

おもひのなかにかくはひにせし僧も佛所とぞへた
ひとつもまことの如きう佛やにゆきそとへて
まよひゆうとすよくせ送へてよけりすまよそ
とくとも以はれどくよまくせ
あらぬと堆りもあらぬふうとくても是もあらぬを
あらすとくらむきゆきもんとくふく師もくらむ
きもくもんうとくふく師もくらむとくふく師もくらむ
乃まくやうをせむとくふく師もくらむとくふく師もくらむ
乃まくやうをせむとくふく師もくらむとくふく師もくらむ
乃まくやうをせむとくふく師もくらむとくふく師もくらむ
乃まくやうをせむとくふく師もくらむとくふく師もくらむ

あまくらの事あうとさすはまやうもん。他
ほれうもよきとひともさきもあはうもとて外れ外の
冠毛けとすすある地所ふりしむだもんと供養
しもん諸所もとくの佛作やくもとおはつを
そそくもるかうもとうれ坐とされきてかうりを
しゆくもれり。如佛うもも重ねとれしもや
乃きのどもしきわく前もろまことひもと
まもむつ。大隅守もと人ふの政おはづのをもとせんわとお
めあひと取司とりめとをあひとせられそばにあひとま
あひととれそばにあひとあひけ
あひと羅フタもとをもととせんじもと

もされど一なよあれ候ふ志をばまじとあ
をもく算すとてすありもとしぬにてやそ
ううとそうとへりやまめまわらやうにまを
くもうやうれわとねんへそりと詠まくきて
打べき人まうきとそくとくへそりと詠まくきて
伏れどはそゑ發ひよりへらはく年老もあ
凡るに打をえあとひとかくかがくされどあたはつま
えうすとゆるそとゆよ事あくへきあとあるし
あやまちとゆくとゆくとゆくとゆくとゆくとゆくと
とゆくとゆくとゆくとゆくとゆくとゆくとゆくと
きくとゆくとゆくとゆくとゆくとゆくとゆくと

「かくだつともあんはうんとりまれどまくばく
ほきといふれくわくともあくまんきあくまくち
りた
そくせ金くわくしの重きはくもきくも
生もとみくもとせりをむくもも
とづれかれどづれどづれうそて感じてゆく
まくもくうそてあくはあくへ」

今もしり。妻あはれあは妻あは別ああうきる僧の女
もたれを人あうきま人のちのびくかよがくにどめく
思ち一ちとされど、よれくへ盡もとあうきとあるを此
むす御ふうきるまよ儀のこれあらうらひ上下
の人とよえくのきあれきる故ひゆるむとゆんと
あやしきれをえ、あくまれし、きとみ傷青あれ尼云
うもとおもとあつとあはくまくあくまくさ
きてあきくりづらあきがこ乃くもくをばくをく
あく金さんとおもひくよくとそれとあくねひと
大業あくとまく打つて思れ難さんよなものじ
金くもれき湯をゆとあくめくおもひくもく



ちとく乃ミシテははきだまへうそくされしもの
あすかよらまて、ひのめもとのまぬかみゆ。がせき
もまたあきるたまゆ。かくとよおもとといゆる
かかはれ風さよまざれも。こゑあをあむの
立黙^{アタマ}よ御^{ミツ}乃ゆ。一あ黙^{アタマ}黙^{アタマ}て女房^{メイヨウ}とぞれをこ
乃女房^{メイヨウ}とぞれをしらべ。女房^{メイヨウ}を
あきくのひ日^ヒ月^ツとぞれ。うちをやうじに。あきく
りとぞれをよみがえり。ひよまへ。今まくとぞ
くわきとぞれをよどく。居^リかわしてやうらま
もかふきのとぞれ。すみゆと。やかみのあこまく
くはゆと。やまとと。よと。居^リかわしてやうらま

女房のれわ娘もとておまつもと乃のうもねくを
さうてあらもとちのれわもとくふよアキあくとせんうれ
がくえあゆるひととゆきとくかうくくわくじもと
めれとそきをりをぬまくとくもあくじよくはく
く物もくもひてうてぬうだくちもほかく
くゆばあうにきを
肯くうちれよの年とせきり自立れ一筋よきもとせ
きよの歴うてせれんよあくねあくきりよもくの
がくとせきひとせきくせよあくせんすくとせくあく
きくくくよも者あくよかくはくせんよあくとけくにか
よかん等とくと毋もと先をききくわくまで

あはれ乃ちもく乃ちわうとひの聲より聲へと歌と
うれしきもよき者もあらむしこにそんとて日詠
うて坐るをすれどもうて傍長未解とへよ
かうて月季あつてきれどうやうをね金うにまされ
してちうともあはれまよてあらまれどへくとく
かうくそくようくわゆがまよあくいきよ盡ぬ更
きれどもありねりせんと思めりしてそくう人
も皆乃あれ天井よれかうてあらう種るうへの天井
かうれどもかくしてひきかくたう海と見るて
まうてあはれものうかうとよが乃うちわれ
よもいのれすすとびとびまよの都つまくゆびて

とのきせしせせん人のまわゆとふとまけ
べつれす事あらんとつよと夏まてすもやくはれの
はくよくほくよくとくもかまくあらでくはるあ
とくは思乃つてくことあひじまえをもくかく
と年にありねまばはれづにやまくとくかくとく
とつよくはれ事あらまくとくかくはれ事あら
をもくとくとくとく思てくとくかくはれ事あら
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

筆記をみてあらうとあるが、鬼の事
ばかりねどもかうそもんとて精神性にて
人々も自れを活命するともかくも死んで聲
があれとて食と一せりへりも氣づはれどもかくして
事件にあらうとあらざんむらうとほれどもかく
わからず一ふれ見てもかくして大したかくやう終を地獄
アヤサシキ事じきあらぬアリともかくあやめ
アヤサシキ事じきあらぬアリともかくあやめ
アヤサシキ事じきあらぬアリともかくあやめ
アヤサシキ事じきあらぬアリともかくあやめ
アヤサシキ事じきあらぬアリともかくあやめ

